

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	四国財務局長
【提出日】	平成22年2月15日
【四半期会計期間】	第47期第2四半期（自平成21年10月1日至平成21年12月31日）
【会社名】	穴吹興産株式会社
【英訳名】	ANABUKI KOSAN INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 穴吹 忠嗣
【本店の所在の場所】	香川県高松市鍛冶屋町7番地12
【電話番号】	087(822)3567(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理本部長 富岡 徹也
【最寄りの連絡場所】	香川県高松市鍛冶屋町7番地12
【電話番号】	087(822)3567(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理本部長 富岡 徹也
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第46期 第2四半期連結 累計期間	第47期 第2四半期連結 累計期間	第46期 第2四半期連結 会計期間	第47期 第2四半期連結 会計期間	第46期
会計期間	自平成20年 7月1日 至平成20年 12月31日	自平成21年 7月1日 至平成21年 12月31日	自平成20年 10月1日 至平成20年 12月31日	自平成21年 10月1日 至平成21年 12月31日	自平成20年 7月1日 至平成21年 6月30日
売上高(千円)	19,685,122	18,911,481	9,880,685	7,582,511	66,929,090
経常利益又は経常損失() (千円)	894,567	1,514,252	400,978	892,958	1,313,610
当期純利益又は四半期純損失 ()(千円)	490,465	880,358	143,061	520,929	897,809
純資産額(千円)	-	-	5,826,708	6,067,322	7,090,195
総資産額(千円)	-	-	57,616,647	49,361,056	56,881,543
1株当たり純資産額(円)	-	-	202.03	216.45	251.15
1株当たり当期純利益金額又は 四半期純損失金額()(円)	17.68	32.62	5.20	19.35	32.74
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率(%)	-	-	9.5	11.7	12.0
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	5,817,949	12,024,853	-	-	11,755,461
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	730,734	136,388	-	-	573,439
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	7,443,343	5,847,219	-	-	5,130,899
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	-	-	9,002,632	7,530,484	13,844,506
従業員数(人) (外、平均臨時雇用者数)	-	-	652 (449)	647 (441)	654 (479)

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第46期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、第46期第2四半期連結累計(会計)期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、1株当たり四半期純損失であり、また、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、第47期第2四半期連結累計(会計)期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

3【関係会社の状況】

当第2四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成21年12月31日現在

従業員数（人）	647	(441)
---------	-----	-------

(注) 従業員数は就業人員であり、契約社員及びパート社員数は、当第2四半期連結会計期間の平均人員を（ ）外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成21年12月31日現在

従業員数（人）	222	(50)
---------	-----	------

(注) 従業員数は就業人員であり、契約社員及びパート社員数は、当第2四半期会計期間の平均人員を（ ）外数で記載しております。

第2【事業の状況】

1【販売及び契約の状況】

当第2四半期連結会計期間の販売（売上）実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当第2四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	前年同期比(%)
不動産関連事業(千円)	4,563,283	70.1
人材サービス関連事業(千円)	1,485,059	79.6
施設運営事業(千円)	1,103,713	100.4
その他事業(千円)	430,454	107.1
合計(千円)	7,582,511	76.7

- (注) 1. 本表の金額には、消費税は含まれておりません。
 2. セグメント間の取引については相殺消去しております。

《不動産関連事業》

マンションの分譲事業における地域別契約戸数は、次のとおりであります。

地域	前第2四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)		当第2四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	
	契約戸数 (戸)	割合(%)	契約戸数 (戸)	割合(%)
四国	154	36.0	156	32.8
中国	97	22.7	133	28.0
近畿	64	14.9	34	7.2
九州	113	26.4	152	32.0
合計	428	100.0	475	100.0

《人材サービス関連事業》

人材サービス事業の地域別売上高は、次のとおりであります。

地域	前第2四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)		当第2四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	
	売上高 (千円)	割合(%)	売上高 (千円)	割合(%)
四国	894,348	47.9	749,930	50.5
中国	371,393	19.9	273,549	18.4
近畿	151,888	8.1	129,391	8.7
中部	109,147	5.9	89,541	6.0
関東	338,901	18.2	242,645	16.4
合計	1,865,679	100.0	1,485,059	100.0

《施設運営事業》

施設運営事業の種類別売上高は、次のとおりであります。

事業の種類	前第2四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)		当第2四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	
	売上高 (千円)	割合(%)	売上高 (千円)	割合(%)
ホテル事業	598,601	54.4	517,184	46.8
施設運営受託事業	436,798	39.7	517,337	46.9
ゴルフ事業	64,338	5.9	69,191	6.3
合計	1,099,738	100.0	1,103,713	100.0

2【事業等のリスク】

当第2四半期連結会計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

4【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1)業績の状況

当第2四半期連結会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日までの3ヶ月間）におけるわが国経済は、世界的な景気低迷による急激な需要減退については和らぐ兆しがみられるものの、企業の設備や雇用に対する過剰感は根強い。円高等の不透明な経済環境が深刻化してきており、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の中で、当社グループは、進出エリアの不動産市場において勝ち組となるべく、引き続き既存の分譲マンション事業を中心に経営資源を集中して収益力及び販売の強化に努めるとともに、競合他社との差別化を推進してまいりました。平成21年11月には、収益性の高い他社分譲マンションの買取り再販ビジネスとして4物件目となる「アルファステージ北安東」を静岡市において販売を開始いたしました。また、かねてより検討を進めておりました高齢者向け賃貸マンションの事業化につきましても、第1号物件となる「アルファリビング百間町（仮称）」を香川県高松市の中心部において建設することが決定しました。それに関連して、平成21年10月には、高齢者を対象としたワークショップを開催し、設備や入居者サービスなどについての聞き取り調査を行いました。当社では、分譲マンションの市場規模が縮小していく中で、高齢者向けビジネスについては一定の需要が見込めることから、今後も西日本の主要都市において同様のマンションを展開していく予定です。

また、人材サービス関連事業におきましては、景気悪化の影響により、企業収益が大幅に減少するなか、雇用情勢は一段と厳しさを増しており、人材サービスに対する需要は低迷を続け、厳しい経営環境が続いております。

当第2四半期連結会計期間（3ヶ月間）における売上高は7,582百万円（前年同期比23.3%減）、営業損失721百万円（前年同期は営業損失191百万円）、経常損失892百万円（前年同期は経常損失400百万円）、四半期純損失520百万円（前年同期は四半期純損失143百万円）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

不動産関連事業

不動産関連事業におきましては、都心部を中心に在庫調整が進み、事業環境の悪化には底打ちの兆しがみられるようになりました。なお、株式会社穴吹工務店（現在は資本関係、債務保証等の重要な契約の締結及び人的交流等の関係はありません）が平成21年11月に会社更生法を申請したことによる風評被害などの影響は見られず、新築分譲マンションの販売についても堅調に推移いたしました。しかしながら、雇用不安や所得環境の厳しさを受け、消費マインドが低迷を続けており、依然として注視すべき状況が続いております。

また、当第2四半期連結会計期間における新築分譲マンションにつきましては、契約戸数につき475戸（前年同期428戸）、売上戸数につき166戸（前年同期181戸）となりました。

この結果、不動産関連事業の売上高は4,563百万円（前年同期比29.9%減）、営業損失は826百万円（前年同期は営業損失265百万円）となりました。

人材サービス関連事業

人材サービス関連事業におきましては、役員・従業員が一体となった地域密着型の粘り強い営業活動を展開し、事務職派遣が大半を占める主力の人材派遣事業において安定収益の確保に努める一方、新たな成長機会の獲得をめざして、医療機関などへの各種人材サービスの提案にも注力しました。

この結果、人材サービス関連事業の売上高は1,485百万円（同20.4%減）、営業利益は7百万円（前年同期は営業損失15百万円）となりました。

施設運営事業

施設運営事業におきましては、売上高は1,103百万円（同0.4%増）、営業利益は50百万円（同0.5%増）となりました。

その他事業

その他事業におきましては、売上高は430百万円（同7.1%増）、営業利益は46百万円（同24.4%増）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日までの3ヶ月間）における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の期末残高は、7,530百万円となっております。

当第2四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結会計期間において、営業活動の結果獲得した資金は、106百万円（前年同期は3,007百万円の使用）となりました。これは主にマンション事業に係る仕入債務の減少によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結会計期間において、投資活動の結果獲得した資金は、19百万円（前年同期は21百万円の使用）となりました。これは主に定期預金の減少によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結会計期間において、財務活動の結果使用した資金は、638百万円（前年同期は5,983百万円の獲得）となりました。これは主にマンション事業のプロジェクトに係る金融機関からの借入金の返済によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者としては、当社の企業価値の源泉及び当社を支えるステークホルダーとの信頼関係を十分に理解し、中長期的な当社の企業価値及び会社の利益ひいては株主共同の利益の確保、向上に資する者が望ましいと考えております。

当社は、当社の支配権の移転を伴う買収提案についての判断は、最終的には当社の株主の皆様ご意思に基づき行われるべきものと考えております。また、当社株券等に対する大量買付行為があった場合においても、これが当社の企業価値の向上及び会社の利益ひいては株主共同の利益に資するものであれば、これを否定するものではありません。

しかしながら、株券等の大量買付行為の中には、その目的等から見て当社の企業価値及び会社の利益ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすおそれのあるもの、株主に当社株券等の売却を事実上強要するおそれのあるもの、当社や当社株主に対して当該行為に係る提案内容や代替案等を検討するための十分な時間や情報を与えないものなども少なくありません。

したがって、当社といたしましては、当社の企業価値の源泉を十分に理解せず、企業価値の向上及び会社の利益ひいては株主共同の利益に資さない大量買付行為を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えており、万一、このような者が現れた場合には、当社として必要かつ相当な対抗措置をとることが、当社の中長期的な企業価値の向上及び会社の利益ひいては株主共同の利益を実現するために必要であると考えております。

基本方針の実現に資する特別な取組み

当社では、当社の企業価値の向上及び会社の利益ひいては株主共同の利益の実現によって、株主、投資家の皆様に長期的に継続して当社に投資していただくため、今般決定しました上記の基本方針の実現に資する特別な取組みとして、以下の施策を実施しております。

この取組みは、下記イの当社グループの企業価値の源泉を十分に理解したうえで策定されており、当社の企業価値及び会社の利益ひいては株主共同の利益を中長期的に向上させるべく十分に検討されたものであります。したがって、上記の基本方針に沿うものであり、当社株主の共同の利益を損なうものではなく、また、当社役員の地位の維持を目的とするものでもありません。

イ 当社グループの企業価値の源泉

a. 不動産関連事業を核とする地域に密着した事業展開

当社は、昭和39年に社員3人の資産管理会社からスタートし、「住まい創りや不動産価値創造事業を通じて、地域社会の文化と歴史の創造に貢献する」を経営理念に掲げ、「アルファ」ブランドのマンションを中四国・近畿・九州で分譲を行うほか、戸建請負、不動産仲介などの不動産関連事業、またグループ企業としてホテル・ゴルフ場などの施設運営事業、人材派遣・有料職業紹介事業などの人材サービス関連事業、その他事業としてトラベル事業、広告代理事業など、不動産事業を中心として地域に密着した事業展開を行ってまいりました。現在では、連結子会社12社、総従業員数約1,100名（臨時雇用社員を含みます。）を要するグループにまで成長を遂げております。

現在、当社グループは、経営理念を実現すべく、核となる不動産関連事業において主力の分譲マンション事業によるディベロップメント機能を拡大・充実させるとともに、不動産仲介等によるフィービジネスを有機的に連携させることによる相乗効果を高めていくことに加えて、M & Aや再生ビジネス案件にともなうホテル等の運営をグループ会社で受託するなど、地域社会になくはならないオンリーワン企業を目指し、付加価値の高い商品・サービスを提供しております。

このように、事業活動を通じて地域社会に貢献していくことを使命としている当社グループにとって、常に地域社会と連携をとり、地域社会の環境・風土に結びついた商品・サービスを構築し、業務を推進していくためには、地域社会と密接に繋がった従業員の力は必要不可欠です。そのため当社グループでは、お客様に満足していただくためには、従業員が経営理念やビジョン、価値観を共有し、当社グループの従業員であることを誇りとして業務に邁進できる環境を整えることも重要かつ不可分であるとの考えから、企業価値の向上にあたっての基本路線の一つとして「CS（顧客満足）・ES（従業員満足）推進企業」を定めております。したがって、当社グループでは優秀な人材を社内に確保、育成するとともに、従業員との良好かつ緊密な関係を維持していくことが重要であると考えております。

b. お客様との長期的かつ良好な信頼関係

当社グループは、主力の分譲マンション事業において、マンション用地の選定、商品企画、施工管理、販売、入居後のアフターメンテナンス、さらには仲介といった住替えのお手伝いまで全てを自社グループ一貫体制で行うことにより、当社のマンションに住むお客様に安心・安全・快適をお届けしてまいりました。また、定期的を実施するお客様不満足度調査やモニターヒアリング等を通じてお客様の生の声を収集し、商品企画に反映させ、多彩なライフスタイルに対応する4つの「アルファ」ブランドを展開しております。これらのように、お客様視点に立って事業を展開することで様々なお客様との信頼関係を構築し、「アルファファン」を作ってきたことが当社グループ各社の事業活動を支えております。今後もお客様との信頼関係を維持し、お客様の満足度を高め、多くの「アルファファン」を作り、その「アルファファン」に育てていただくことが当社グループの持続的な発展に繋がるものと考えております。

c. 事業活動を支える「あなぶき」ブランド

当社は事業エリアである中四国、近畿、九州において「不動産のもつ無限の可能性に挑戦し、常に新しい価値を創造することで、そこに暮らし、訪れる人々、そして街の未来を豊かにしていく」ことをブランドの約束として「あなぶき」ブランドを浸透させ構築してまいりました。「あなぶき」ブランドは当社グループが提供する商品やサービスのブランド価値に直結し、事業を展開していくうえで大きなアドバンテージとなっております。今後も「あなぶき」のブランド価値を向上させていくことが、当社の企業価値の向上にとって重要であると考えております。

ロ 中期経営計画及び今後の展開

当社の主力事業である分譲マンション事業は、中長期的には景気後退と物価上昇が同時に進行するスタグフレーション傾向、少子高齢化等による需要減退、また他社ディベロッパーとの競合激化が予想されます。このような環境のなかで、当社は、当社の強みである市場を重視した新商品開発力を強化し、魅力ある新商品を提供し続けることで他社を寄せ付けない地位を築きたいと考えております。

そのために、当社は、平成21年6月期から平成23年6月期の中期計経営計画において、「飽くなき新商品開発によりマンション市場において勝ち組となるとともに、当社の総合開発力を活かした不動産価値創造事業を強化する。」という中期ビジョンに基づき、以下の3つの経営方針を定めております。

a. “さすが！「あなぶき」”と言われる新商品を提供する

継続してCSマネジメントを推進することにより、市場が潜在的に求めているニーズを具現化した新商品を提供し、互い（お客様と当社）に満足を生む“あなぶき”ブランドの確立を目指します。

CSマネジメントとは、お客様から見た当社及び当社商品・サービスの価値（バリュー）を最大化するとともにお客様満足に関係しない他のコスト（販売経費など）の低下を両立するバランスのとれた経営です。

b. 不動産価値を創造する総合開発力を強化する

個別の不動産が持つあらゆる可能性を考慮のうえ、最適用途の判断、投資を行い、不動産価値を創造していくための不動産の総合的な開発力を強化します。

具体的には、取得したマンション用地情報について、分譲マンション事業としての是非で判断するのみならず、賃貸住宅や店舗用不動産として投資や用途変更を行うことにより、最有効利用できているかどうかという観点で用地取得の是非を判断していきます。

c. バランスシートを意識した経営を推進する

企業の競争力を高めるためには、投下資本に対する効率の良い利益獲得を推進する必要があります。このためには総資産を適度に圧縮するとともに回転率を高めること及び利益率を向上させることが必要です。従来のP/L（損益計算書）重視だけでなく、B/S（貸借対照表）をも重視したバランスの良い経営を目指します。「利益率の向上（生産性・効率性の向上・新商品開発・コストコントロール等）」とともに「総資産の回転率向上（販売用不動産、事業化に長期を要する物件等の早期キャッシュ回収、事業期間の短縮、低稼働不動産の売却等）」の両面を意識した経営をさらに推進していきます。

八 コーポレートガバナンスの整備

当社は、当社の経営理念に立脚したうえで、企業価値の継続的な向上に努めることが最も重要な責務と考えております。その責務を果たすためには、コーポレートガバナンスの充実・強化が不可欠であると考えており、当社に最も適した仕組みづくりを絶えず追求しております。これまでの具体的な施策については次のとおりです。

a. 執行役員制度の導入

従来取締役が担ってきた経営機能と業務執行機能を分離し、意思決定の迅速化と経営責任の明確化を目的として、平成15年9月より執行役員制度を導入しております。また、取締役に執行役員を含めた当社経営会議を週1回開催し、迅速かつ機動的な業務執行にも努めております。

b. 社外監査役の過半化

経営の透明性をより高めるため、監査役員数に占める社外監査役の比率を過半数としており、現在、監査役4名のうち3名を社外監査役で構成しております。監査役は、取締役会その他重要会議等へ出席し適宜意見を述べたり、重要な決裁書類等を閲覧したりすることなどを通じ、経営の監視・監督機能を果たしております。

c. 取締役任期の短縮

株主の皆様へ経営陣の責任をより一層明確にしていくことを目的とし、平成18年9月に、取締役の任期を従来2年から1年に短縮しております。

d. その他

情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）の認証のための国際規格である「ISO/IEC27001：2005/JIS Q27001：2006」を平成18年12月に認証取得し、その規格に基づき、個人情報をはじめとする各種情報の安全な管理環境の確保及び情報セキュリティレベルの向上に努めております。また、金融商品取引法が求める内部統制システムの構築に積極的に取り組むなど、全社を挙げて内部管理体制を強化しております。

基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社としては、当社株券等に対する大量買付行為が行われた場合、当該大量買付行為が当社の企業価値及び会社の利益ひいては株主共同の利益に資するものであるか否か、株主の皆様適切に判断していただき、提案に応じるか否かを決定していただくためには、大量買付者及び当社取締役会の双方から適切かつ十分な情報が提供され、検討のための十分な期間が確保されることが不可欠であると考えます。また、当社は、当社の企業価値及び会社の利益ひいては株主共同の利益の確保または向上の観点から大量買付行為の条件・方法を変更・改善させる必要があると判断する場合には、大量買付行為の条件・方法について、大量買付者と交渉するとともに、代替案の提案等を行う必要もあると考えておりますので、そのために必要な時間も十分に確保されるべきであります。

当社は、このような考え方に立ち、平成20年8月14日開催の取締役会において、当社株券等の大量買付行為への対応策（買収防衛策）の具体的内容（以下「本プラン」という。）を決定し、平成20年9月25日開催の当社第45期定時株主総会にて、株主の皆様より承認、可決され、本プランを導入いたしました。

本プランは、大量買付者に対し、本プランの遵守を求めるとともに、大量買付者が本プランを遵守しない場合ならびに大量買付行為が当社の企業価値及び会社の利益ひいては株主共同の利益を害すると判断される場合の対抗措置を定めており、その概要は以下のとおりであります（なお、本プランの詳細につきましては当社のホームページ（<http://www.anabuki.ne.jp/>）で公表している平成20年8月14日付プレスリリース「会社の支配に関する基本方針及び当社株券等の大量買付行為への対応策（買収防衛策）」に関するお知らせ）をご参照ください。）。

イ 本プランに係る手続の設定

本プランは、大量買付行為が行われる場合に、大量買付者に対し、事前に当該大量買付行為の内容の検討に必要な情報の提供を求め、当該大量買付行為についての情報の収集及び検討のための一定の期間を確保したうえで、必要に応じて、大量買付者との間で大量買付行為に関する条件・方法について交渉し、さらに、当社取締役会として、株主の皆様へ代替案を提示するなどの対応を行っていくための手続を定めています。

ロ 新株予約権無償割当て等の対抗措置

本プランは、大量買付者に対して当該所定の手続に従うことを要請するとともに、かかる手続に従わない大量買付行為がなされる場合や、かかる手続に従った場合であっても当該大量買付行為が当社の企業価値及び会社の利益ひいては株主共同の利益を害するものであると判断される場合には、かかる大量買付行為に対する対抗措置として、原則として新株予約権を株主の皆様へ無償で割り当てるものです。また、会社法その他の法律及び当社の定款上認められるその他の対抗措置を発動することが適切と判断された場合には当該その他の対抗措置が用いられることもあります。

本プランに従って割り当てられる新株予約権（以下「本新株予約権」という。）には、大量買付者及びその関係者による行使を禁止する行使条件や、当社が本新株予約権の取得と引換えに大量買付者及びその関係者以外の株主の皆様へ当社株式を交付する取得条項等を付すことが予定されております。

本新株予約権の無償割当てが実施された場合、かかる行使条件や取得条項により、当該大量買付者及びその関係者の有する議決権の当社の総議決権に占める割合は、大幅に希釈化される可能性があります。

ハ 独立委員会の設置

本プランに定めるルールに従って一連の手続が進行されたか否か、ならびに、本プランに定めるルールが遵守された場合に当社の企業価値及び会社の利益ひいては株主共同の利益を確保し、または向上させるために必要かつ相当と考えられる一定の対抗措置を講じるか否かについては、当社取締役会が最終的な判断を行います。その判断の合理性及び公正性を担保するために、当社は、当社取締役会から独立した組織として、独立委員会を設置することとします。当社取締役会は、対抗措置を発動するか否かの判断に際して、独立委員会による勧告を最大限尊重するものとします。独立委員会の委員は、3名以上5名以下とし、社外取締役、社外監査役、弁護士、税理士、公認会計士、学識経験者、投資銀行業務に精通している者及び他社の取締役または執行役として経験のある社外者等の中から選任されるものとします。

二 情報開示

当社は、本プランに従い、大量買付行為があった事実、大量買付者から十分な情報が提供された事実、独立委員会の判断の概要、対抗措置の実施または不実施の決定の概要、対抗措置の実施に関する事項その他の事項について、株主の皆様に対し、適時かつ適切に開示します。

本プランの合理性（本プランが基本方針に沿い、当社株主の共同の利益を損なうものではなく、当社役員の地位の維持を目的とするものではないこと及びその理由）

本プランは、以下の理由により、上記の基本方針に沿うものであり、当社株主の共同の利益を損なうものではなく、また当社役員の地位の維持を目的とするものでもないと考えております。

イ 買収防衛策に関する指針の要件等を完全に充足していること

ロ 企業価値及び会社の利益ひいては株主共同の利益の確保または向上を目的として導入されていること

ハ 株主意思を重視するものであること

ニ 独立性の高い社外者の判断の重視

ホ 合理的な客観的要件の設定

ヘ 独立した地位にある第三者の助言の取得

ト デッドハンド型買収防衛策ではないこと

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第2四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第2四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	115,000,000
計	115,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成21年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成22年2月15日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	28,839,000	28,839,000	大阪証券取引所 (市場第一部)	(注) 単元株式数1,000株
計	28,839,000	28,839,000	-	-

(注) 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成21年10月1日～ 平成21年12月31日	-	28,839,000	-	755,794	-	747,590

(5)【大株主の状況】

平成21年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
有限会社穴吹	香川県高松市鍛冶屋町7-12	9,814	34.03
穴吹 忠嗣	香川県高松市	3,862	13.39
有限会社旭不動産	香川県高松市昭和町1-10-28	2,700	9.36
株式会社カトーサービス	香川県観音寺市坂本町4-6-3	900	3.12
あなぶき興産従業員持株会	香川県高松市鍛冶屋町7-12	827	2.86
穴吹 薫	香川県高松市	389	1.35
和歌 弘州	香川県高松市	365	1.26
株式会社わかたけ	大阪市生野区林寺5-3-4	207	0.71
株式会社クリーンサービス	香川県高松市紺屋町3-6	200	0.69
株式会社中国銀行	岡山県岡山市丸の内1-15-20	180	0.62
計	-	19,445	67.42

(注) 上記のほか、自己株式が2,168千株あります。

(6)【議決権の状況】
 【発行済株式】

平成21年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 2,168,000	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 26,664,000	26,664	同上
単元未満株式	普通株式 7,000	-	同上
発行済株式総数	28,839,000	-	-
総株主の議決権	-	26,664	-

【自己株式等】

平成21年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
穴吹興産(株)	香川県高松市鍛冶屋町7-12	2,168,000	-	2,168,000	7.51
計	-	2,168,000	-	2,168,000	7.51

2【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成21年 7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	208	209	205	201	196	165
最低(円)	168	171	183	183	125	134

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所市場第一部におけるものであります。

3【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の異動はありません。

第5【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第2四半期連結会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）及び前第2四半期連結累計期間（平成20年7月1日から平成20年12月31日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第2四半期連結会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び当第2四半期連結累計期間（平成21年7月1日から平成21年12月31日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第2四半期連結会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）及び前第2四半期連結累計期間（平成20年7月1日から平成20年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表並びに当第2四半期連結会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び当第2四半期連結累計期間（平成21年7月1日から平成21年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,595,284	13,853,806
受取手形及び売掛金	812,080	1,030,389
販売用不動産	10,411,404	14,819,805
仕掛販売用不動産	21,631,540	17,821,231
その他のたな卸資産	102,675	84,060
繰延税金資産	1,154,078	333,422
その他	658,770	1,768,070
貸倒引当金	14,640	12,499
流動資産合計	42,351,192	49,698,287
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,150,107	2,241,190
機械装置及び運搬具(純額)	37,004	40,730
土地	3,296,593	3,317,722
建設仮勘定	54,044	53,742
その他(純額)	437,372	457,845
有形固定資産合計	5,975,121	6,111,230
無形固定資産		
のれん	90,513	103,026
その他	105,866	117,769
無形固定資産合計	196,379	220,795
投資その他の資産		
投資有価証券	157,410	162,071
繰延税金資産	149,195	154,122
その他	548,226	554,286
貸倒引当金	16,470	19,251
投資その他の資産合計	838,362	851,229
固定資産合計	7,009,863	7,183,256
資産合計	49,361,056	56,881,543

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,481,227	14,852,758
短期借入金	13,120,300	10,022,000
1年内返済予定の長期借入金	11,589,829	6,891,284
未払法人税等	174,782	185,165
賞与引当金	318,161	311,486
前受金	2,044,049	1,333,252
その他	1,204,057	2,029,650
流動負債合計	30,932,408	35,625,597
固定負債		
長期借入金	11,664,931	13,464,883
退職給付引当金	462,751	456,453
役員退職慰労引当金	73,044	73,044
その他	160,599	171,370
固定負債合計	12,361,325	14,165,751
負債合計	43,293,733	49,791,348
純資産の部		
株主資本		
資本金	755,794	755,794
資本剰余金	821,283	821,283
利益剰余金	4,647,862	5,609,521
自己株式	443,786	375,199
株主資本合計	5,781,153	6,811,399
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	8,303	5,303
評価・換算差額等合計	8,303	5,303
少数株主持分	294,471	284,098
純資産合計	6,067,322	7,090,195
負債純資産合計	49,361,056	56,881,543

(2)【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年12月31日)
売上高	19,685,122	18,911,481
売上原価	15,311,223	15,378,583
売上総利益	4,373,898	3,532,897
販売費及び一般管理費	4,871,881	4,716,046
営業損失()	497,983	1,183,148
営業外収益		
受取利息	8,543	4,459
受取配当金	3,260	2,268
還付加算金	-	22,569
その他	20,334	24,120
営業外収益合計	32,138	53,418
営業外費用		
支払利息	405,234	372,675
その他	23,488	11,847
営業外費用合計	428,723	384,522
経常損失()	894,567	1,514,252
特別利益		
固定資産売却益	28,657	3,647
貸倒引当金戻入額	298	1,689
債務保証損失引当金戻入額	7,199	2,334
償却債権取立益	2,498	7,782
その他	1,162	-
特別利益合計	39,815	15,454
特別損失		
固定資産売却損	31,972	-
固定資産除却損	29,537	1,088
投資有価証券評価損	1,368	1,240
その他	2,058	-
特別損失合計	64,936	2,328
税金等調整前四半期純損失()	919,687	1,501,126
法人税、住民税及び事業税	35,446	182,733
法人税等調整額	460,210	813,873
法人税等合計	424,763	631,140
少数株主利益又は少数株主損失()	4,458	10,372
四半期純損失()	490,465	880,358

【第2四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)
売上高	9,880,685	7,582,511
売上原価	7,484,159	6,058,502
売上総利益	2,396,525	1,524,008
販売費及び一般管理費	2,588,027	2,245,580
営業損失()	191,501	721,571
営業外収益		
受取利息	1,263	980
受取配当金	575	212
還付加算金	-	16,973
その他	14,789	12,536
営業外収益合計	16,627	30,702
営業外費用		
支払利息	209,566	196,484
その他	16,537	5,604
営業外費用合計	226,104	202,089
経常損失()	400,978	892,958
特別利益		
固定資産売却益	58	-
貸倒引当金戻入額	-	1,805
債務保証損失引当金戻入額	-	696
償却債権取立益	2,498	4,239
その他	5,586	-
特別利益合計	8,143	6,741
特別損失		
固定資産売却損	31,926	-
固定資産除却損	21,562	204
投資有価証券評価損	1,368	136
その他	2,058	-
特別損失合計	56,915	341
税金等調整前四半期純損失()	449,751	886,557
法人税、住民税及び事業税	23,224	79,915
法人税等調整額	323,836	447,688
法人税等合計	300,612	367,772
少数株主利益又は少数株主損失()	6,076	2,144
四半期純損失()	143,061	520,929

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	919,687	1,501,126
減価償却費	209,848	180,872
のれん償却額	781	513
貸倒引当金の増減額(は減少)	25	639
賞与引当金の増減額(は減少)	1,487	6,675
退職給付引当金の増減額(は減少)	2,825	6,297
受取利息及び受取配当金	11,803	6,728
支払利息	405,234	372,675
固定資産売却損益(は益)	3,314	3,647
固定資産除却損	29,537	1,088
売上債権の増減額(は増加)	112,775	218,309
たな卸資産の増減額(は増加)	2,585,822	579,476
仕入債務の増減額(は減少)	1,317,189	12,371,531
その他	534,917	1,010,168
小計	4,603,590	11,507,596
利息及び配当金の受取額	11,502	6,733
利息の支払額	380,290	330,179
法人税等の支払額	845,571	193,810
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,817,949	12,024,853
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(は増加)	-	55,500
有形固定資産の取得による支出	70,601	75,706
有形固定資産の売却による収入	600,809	24,776
無形固定資産の取得による支出	33,587	4,854
投資有価証券の取得による支出	2,199	2,539
投資有価証券の分配による収入	-	1,106
貸付けによる支出	29	214
事業譲受による支出	120,000	-
事業譲受による収入	340,940	-
その他	15,402	23,456
投資活動によるキャッシュ・フロー	730,734	136,388
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	2,882,900	3,098,300
長期借入れによる収入	6,657,220	6,405,000
長期借入金の返済による支出	1,725,940	3,506,407
自己株式の取得による支出	147,703	68,587
配当金の支払額	223,133	81,086
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,443,343	5,847,219
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,356,128	6,314,022
現金及び現金同等物の期首残高	6,646,504	13,844,506
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,002,632	7,530,484

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年12月31日)
連結の範囲に関する事項の変更	(会計方針の変更) 第1四半期連結会計期間より、「連結財務諸表における子会社及び関連会社の範囲の決定に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第22号 平成20年5月13日)を適用しております。 これによる当第2四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表への影響はありません。

【簡便な会計処理】

当第2四半期連結累計期間(自平成21年7月1日 至平成21年12月31日)
該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第2四半期連結累計期間(自平成21年7月1日 至平成21年12月31日)
該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第2四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末 (平成21年6月30日)
有形固定資産の減価償却累計額は、3,340,076千円です。	有形固定資産の減価償却累計額は、3,213,838千円です。

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年12月31日)
販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。
社員給料 1,324,442千円	社員給料 1,331,712千円
販売促進費 727,796	販売促進費 838,735
賞与引当金繰入額 303,575	賞与引当金繰入額 272,218
退職給付費用 38,570	退職給付費用 43,144

前第2四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)
販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。
社員給料 694,980千円	社員給料 654,380千円
販売促進費 402,755	販売促進費 360,219
賞与引当金繰入額 137,557	賞与引当金繰入額 129,934
退職給付費用 21,666	退職給付費用 20,161

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年12月31日)
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成20年12月31日現在)	現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成21年12月31日現在)
現金及び預金勘定 9,000,889千円	現金及び預金勘定 7,595,284千円
有価証券(うちマネーマネジメント ファンド) 10,143	
小計 9,011,032	小計 7,595,284
預入期間が3ヶ月を超える定期預金 8,400	預入期間が3ヶ月を超える定期預金 64,800
現金及び現金同等物 9,002,632	現金及び現金同等物 7,530,484

(株主資本等関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成21年12月31日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成21年7月1日至平成21年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数

普通株式 28,839,000株

2. 自己株式の種類及び総数

普通株式 2,168,365株

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成21年9月25日 定時株主総会	普通株式	81,300	3	平成21年6月30日	平成21年9月28日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間
 末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年2月12日 取締役会	普通株式	53,341	2	平成21年12月31日	平成22年3月15日	利益剰余金

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間(自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)

	不動産関連 事業 (千円)	人材サービ ス関連事業 (千円)	施設運営事 業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全 社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	6,513,185	1,865,679	1,099,738	402,081	9,880,685	-	9,880,685
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	27,404	5,884	2,399	69,684	105,373	(105,373)	-
計	6,540,590	1,871,564	1,102,137	471,765	9,986,058	(105,373)	9,880,685
営業利益又は営業損失()	265,285	15,268	50,135	37,588	192,830	1,328	191,501

当第2四半期連結会計期間(自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)

	不動産関連 事業 (千円)	人材サービ ス関連事業 (千円)	施設運営事 業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全 社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	4,563,283	1,485,059	1,103,713	430,454	7,582,511	-	7,582,511
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	34,405	5,206	1,980	62,547	104,140	(104,140)	-
計	4,597,689	1,490,265	1,105,693	493,002	7,686,651	(104,140)	7,582,511
営業利益又は営業損失()	826,843	7,761	50,394	46,759	721,929	357	721,571

前第2四半期連結累計期間(自平成20年7月1日 至平成20年12月31日)

	不動産関連 事業 (千円)	人材サービ ス関連事業 (千円)	施設運営事 業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全 社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	13,052,252	3,712,318	2,170,304	750,247	19,685,122	-	19,685,122
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	52,956	10,902	4,916	113,397	182,172	(182,172)	-
計	13,105,208	3,723,220	2,175,221	863,644	19,867,295	(182,172)	19,685,122
営業利益又は営業損失()	602,699	11,755	68,963	44,715	500,775	2,792	497,983

当第2四半期連結累計期間(自平成21年7月1日 至平成21年12月31日)

	不動産関連 事業 (千円)	人材サービ ス関連事業 (千円)	施設運営事 業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全 社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	12,855,448	3,023,387	2,232,393	800,251	18,911,481	-	18,911,481
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	68,643	11,002	5,114	129,270	214,031	(214,031)	-
計	12,924,092	3,034,389	2,237,508	929,522	19,125,512	(214,031)	18,911,481
営業利益又は営業損失()	1,415,081	34,924	110,786	85,831	1,183,539	390	1,183,148

(注) 事業区分の方法及び各区分の主な内容

事業区分は事業内容を考慮して次のように区分しております。

不動産関連事業.....マンション・戸建ての分譲、注文住宅の受注、不動産賃貸・売買仲介、駐車場経営

人材サービス関連事業...人材派遣及び有料職業紹介

施設運営事業.....ホテル・ゴルフ場等施設運営

その他事業.....旅行手配、旅行販売、広告代理、損害保険代理

【所在地別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間（自平成20年10月1日 至平成20年12月31日）及び当第2四半期連結会計期間（自平成21年10月1日 至平成21年12月31日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

前第2四半期連結累計期間（自平成20年7月1日 至平成20年12月31日）及び当第2四半期連結累計期間（自平成21年7月1日 至平成21年12月31日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

前第2四半期連結会計期間（自平成20年10月1日 至平成20年12月31日）及び当第2四半期連結会計期間（自平成21年10月1日 至平成21年12月31日）

海外売上高がないため該当事項はありません。

前第2四半期連結累計期間（自平成20年7月1日 至平成20年12月31日）及び当第2四半期連結累計期間（自平成21年7月1日 至平成21年12月31日）

海外売上高がないため該当事項はありません。

（ストック・オプション等関係）

当第2四半期連結会計期間（自平成21年10月1日 至平成21年12月31日）

該当事項はありません。

（企業結合等関係）

当第2四半期連結会計期間（自平成21年10月1日 至平成21年12月31日）

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第2四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)		前連結会計年度末 (平成21年6月30日)	
1株当たり純資産額	216.45円	1株当たり純資産額	251.15円

2. 1株当たり四半期純損失金額

前第2四半期連結累計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年12月31日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年12月31日)	
1株当たり四半期純損失金額 ()	17.68円	1株当たり四半期純損失金額 ()	32.62円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年12月31日)
四半期純損失()(千円)	490,465	880,358
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失()(千円)	490,465	880,358
期中平均株式数(株)	27,733,526	26,990,540

前第2四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)		当第2四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	
1株当たり四半期純損失金額 ()	5.20円	1株当たり四半期純損失金額 ()	19.35円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)
四半期純損失()(千円)	143,061	520,929
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失()(千円)	143,061	520,929
期中平均株式数(株)	27,502,471	26,922,961

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年2月10日

穴吹興産株式会社
取締役会御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 鈴木一宏
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 新居伸浩
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている穴吹興産株式会社の平成20年7月1日から平成21年6月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成20年7月1日から平成20年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、穴吹興産株式会社及び連結子会社の平成20年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲には、XBR Lデータ自体は含まれておりません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年2月12日

穴吹興産株式会社
取締役会御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 竹野俊成

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 新居伸浩

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている穴吹興産株式会社の平成21年7月1日から平成22年6月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成21年7月1日から平成21年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、穴吹興産株式会社及び連結子会社の平成21年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲には、XBR Lデータ自体は含まれておりません。